

千葉県立中央博物館 房総の山のフィールド・ミュージアム



千葉県立中央博物館では君津市南部の清和県民の森を中心に房総丘陵全域をフィールドとした「房総の山のフィールド・ミュージアム」プロジェクトをおこなっています。これは山の自然や文化そのものを“資料”や“展示物”と考える、建物のない博物館活動です。

フィールド・ミュージアムの活動内容は多岐にわたりますが、ここではその中から「三島小教室博物館」、「山みち展示」、「山の学校」、「おばあちゃんの畑」について紹介します。

●三島小教室博物館

房総丘陵の山奥にある君津市立三島小学校の古い木造校舎の一室をお借りして、毎週金曜日、我々学芸員が駐在し、房総丘陵の自然や関する資料の収集と研究を行っています。

●自然観察路「山みち展示」

清和県民の森の遊歩道に沿って、季節の自然などの解説板を設置し、季節毎の案内地図を配布して、訪れた方に自由に見学していただくようになっています。

●観察会「山の学校」

山の自然や文化をテーマとして、房総丘陵のおすすめの場所を学芸員が案内する観察会を年に10回以上実施しています。「山の学校」という定例観察会は4～9月の毎月第3土曜日に清和県民の森や君津市立三島小学校の周辺で開催しています。他にも、地層、化石、昆虫、泥だんごなど様々なテーマの観察会があります。

●おばあちゃんの畑プロジェクト

君津市清和地区に伝えられた在来作物の種子を集め、機械化される以前の方法で栽培・加工し、その技術を記録・継承するという試みで、平成20年に開始しました。小学校や地域の方々に協力していただき、清和地区の在来作物を調査したところ、約60サンプルの種子が集まりました。マナ／オカンナと呼ばれる菜っ葉やヤエナリと呼ばれる緑豆やニホンカボチャなど現在ではほとんど流通していない作物や、コムギ、ゴマ、ササゲ、アズキなど国内自給率の低い作物などです。

これらの在来作物は、地元のおばあちゃんを中心とするNPOによって栽培されています。月1回の畑作業の日には千葉県内外から様々な人が訪れ、一緒に作業をします。この作業を通じて、栽培方法や細かな技術の伝承がはかられているのです。また、地域の公民館とも連携し、親子向けのイベントなどを一緒に開催しています。さらに、在来作物を原料に菓子や総菜を作り、「おばあちゃんの畑」ブランドで販売する取り組みも始めました。今はコムギを使った菓子類が主ですが、清和地区で昔から作られていた麦芽の飴を復活させるなどの活動も始まりました。

活動開始	会員数	活動日・回数	主な活動場所	連絡先
平成15年4月		通年	房総丘陵	県立中央博物館 043-265-3111